

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：理工系アートのススメ ILAS Seminar :Art & Science, Technology			担当者所属 職名・氏名	防災研究所 特定教授 土佐 尚子		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2026・前期	受講定員 (1回生定員)	20(15)人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	火5	教室	坂記念館(本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	映像 / 芸術 / デジタル / ハイスピードカメラ / メディアアート						
[授業の概要・目的]							
<p>このゼミでは、感情、無意識、ノンバーバルな情報を扱ったをアート&テクノロジー領域をテーマに、研究、作品制作を行います。</p> <p>さらに、未来のコンピュータに不可欠なコミュニケーション能力である定量化できなかった個人の感情・意識・民族性・物語性といった人々に内属する文化を表現し、精神に触れるインターフェースを研究します。</p> <p>芸術には、固有のまたは共通の形式があります。人間が歴史の中で行為や文法などの形で蓄えてきたものをモデル化し、先端技術を用いたインタラクティブな表現、文化体験をする方法を、「カルチュラル・コンピューティング」と定義します。</p> <p>特に日本文化のコンピューティングに注目し、ほとんどコンピューティングの対象となって来なかった 1.日本の移ろいやすい気象・自然風土「もののあわれ」などの無常思想、「わび、さび」などの美意識 2.日本文化とアジア文化との関係性 3.神仏習合を根底とした文化構造 4.和歌、俳諧や能などの日本語独特の特性 5.日本的意匠(紋、織、色、型、能、歌舞伎)を研究します。</p>							
[到達目標]							
アートが好きだけでも創作が苦手な工学系の学生が自信を持って、アート制作ができるようになること。							
[授業計画と内容]							
授業回数はフィードバックを含め全15回とする。							
以下のような課題について、授業で研究、実習をする予定である。							
1)アート思考の発見 ー着想と発案							
2)作って考える ープロトタイプ制作の力							
3)初心にかえる ー経験をアート化する							
4)メッセージを広げる ー物語の重要性							
ILASセミナー：理工系アートのススメ(2)へ続く							

ILASセミナー : 理工系アートのススム(2)

- 5) アート思考と社会との関係性
ー社会における新しい価値創造
- 6) アート・アクティヴィズム
ーグローバルな可能性を秘めたソリューション
- 7) アート思考で新しい価値を設計する

【履修要件】

アートや映像に興味があること、コンピュータを使って作品を作成することに関心があること、emailを送受信できる環境を持ち、自分のコンピュータを持っていること。

【成績評価の方法・観点】

作品課題、平常点、レポート。試験はしない。詳しくは授業中に指示する。

【教科書】

土佐尚子 『TOSA RIMPA』 (淡交社)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)
<http://tosa.dpri.kyoto-u.ac.jp/>

【授業外学修(予習・復習)等】

予習は、教科書の指定ページ、また事前の授業で指定した参考資料を読んでおく(30分)
復習は、授業中に指定した作品制作を行う。(1時間)

【その他(オフィスアワー等)】

オフィスアワー 授業終了後 18時-19時 tosa.naoko.5c@kyoto-u.ac.jpへ連絡をしてアポイントメントを取ること

【主要授業科目(学部・学科名)】